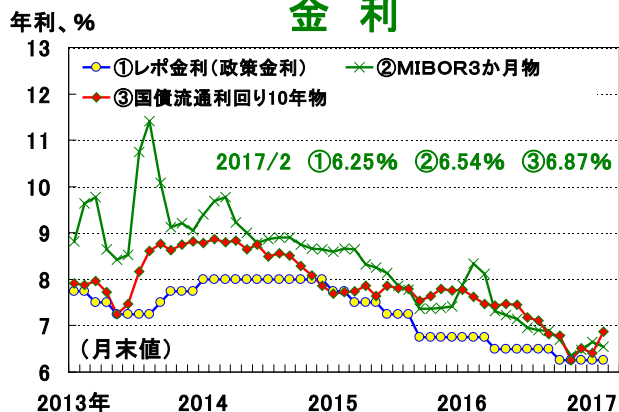


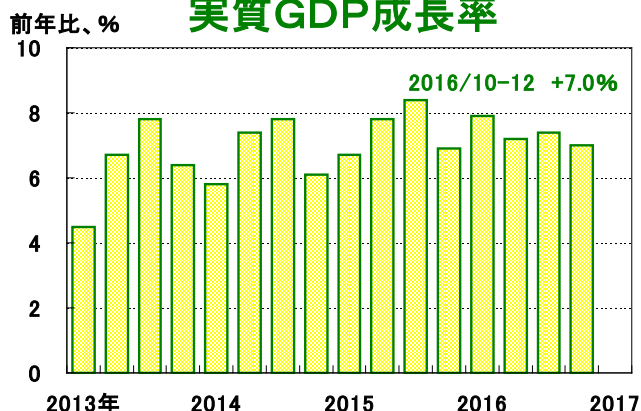
グラフで見るインド経済 2017年3月号(No. 87)

インド経済は成長率が鈍化した。2016年10～12月期の実質GDPは前年比+7.0%(前期は同+7.4%)と、2015年10～12月期以来の低成長となった。一方、直近の月次指標は、景気が持ち直していることを示唆している。まず、内需をみると、2017年1月の新車販売台数は前年比+14.4%(前月は同-1.4%)と4か月ぶりの高い伸びとなった。また、外需についても、同月の輸出が同+4.3%と5か月連続で増加している。2月の製造業PMIは50.7と2か月続けて中立水準の50を上回り、企業マインドも足元で緩やかに改善している。

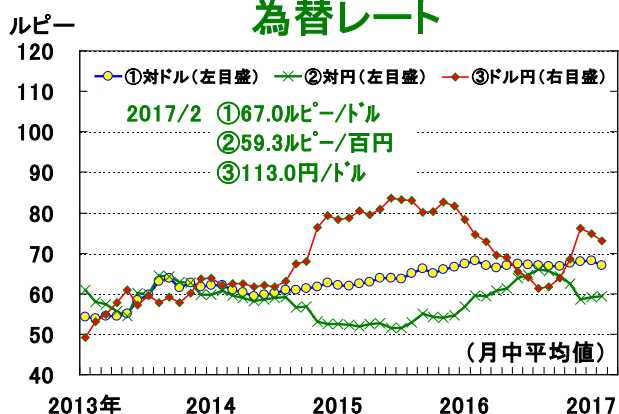
金利



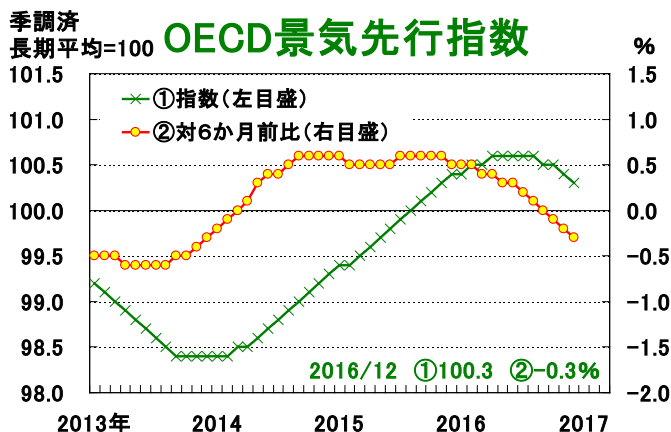
実質GDP成長率



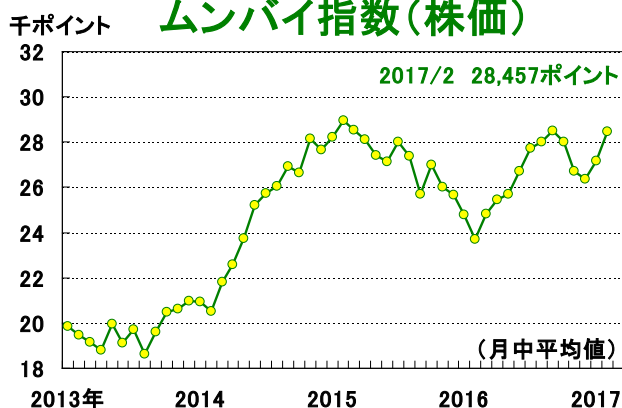
為替レート



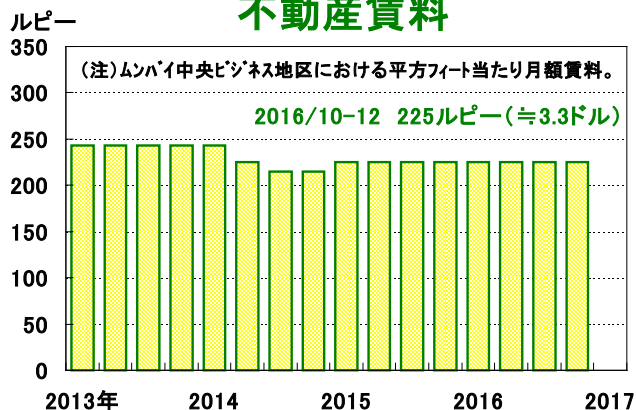
OECD景気先行指数



ムンバイ指数(株価)



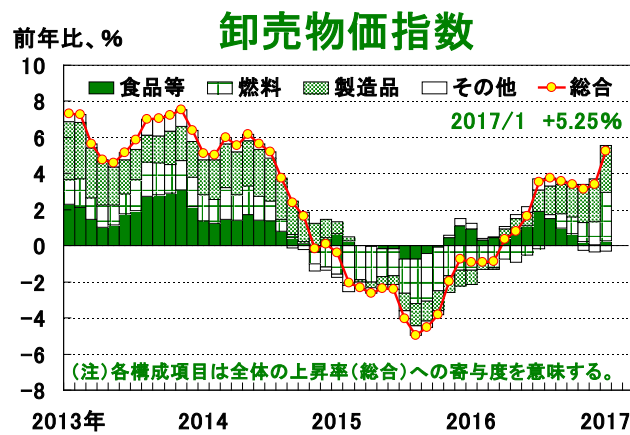
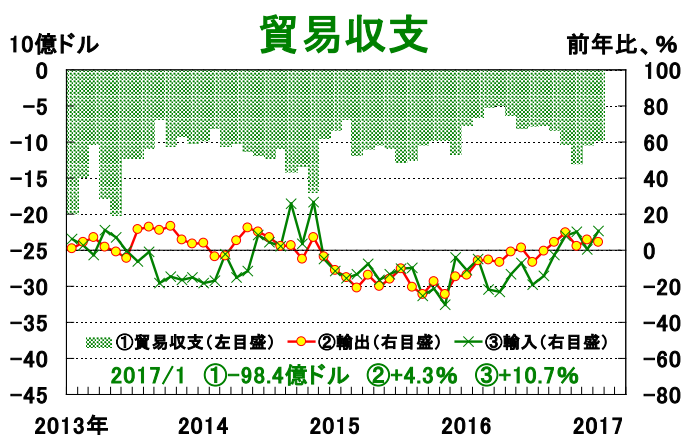
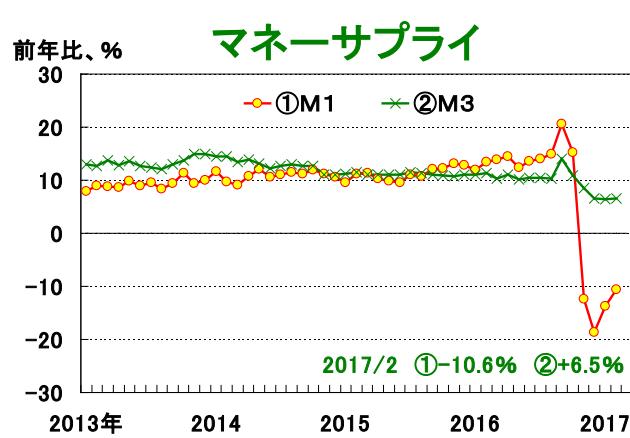
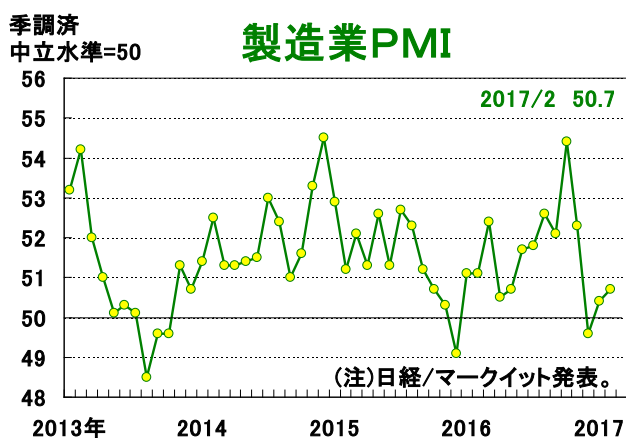
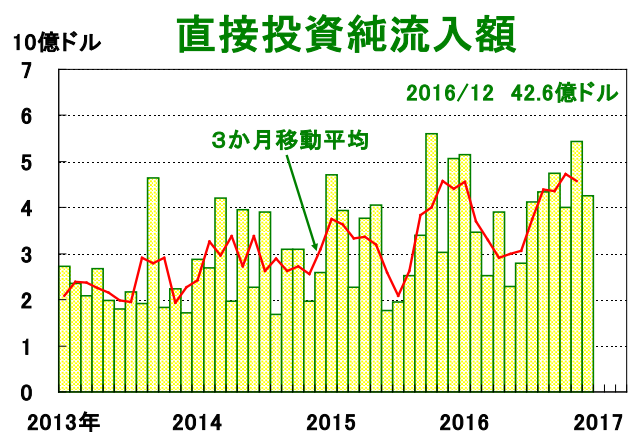
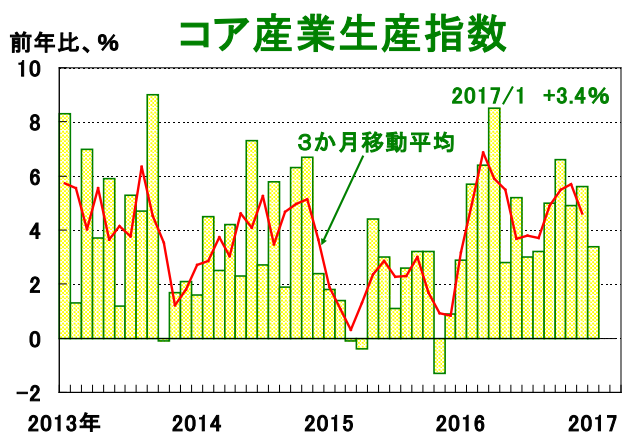
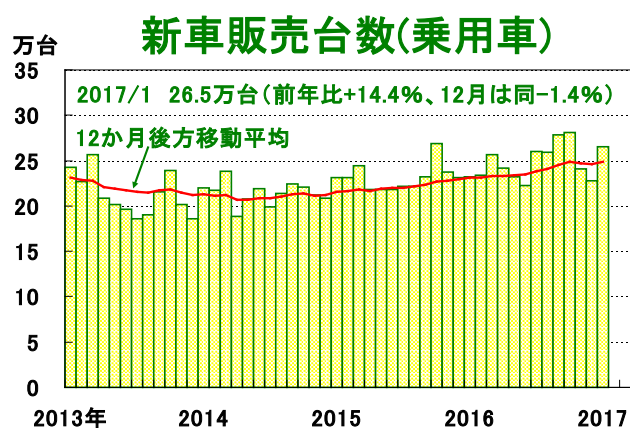
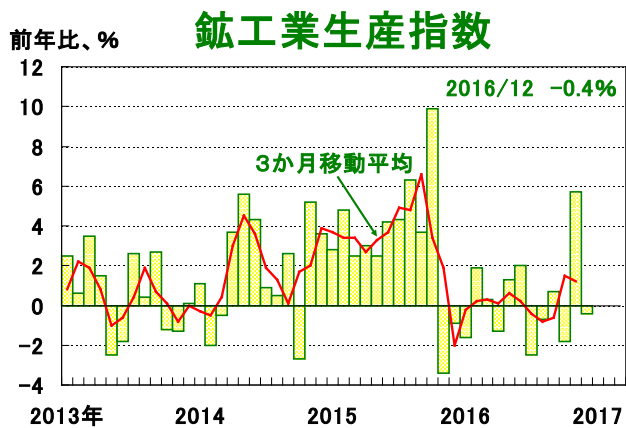
不動産賃料



【今月のトピック: 2050年にはインドが米国を上回る経済大国に】 2月にプライスウォーターハウスクーパースは、長期的な世界経済を展望したレポートを公表した。同レポートによると、2016年～2050年の期間のインドの平均人口増加率は0.7%、1人当たりGDP成長率は4.1%であり、GDP成長率は4.9%となる。2050年の購買力平価によるGDPの世界順位は、1位:中国、2位:インド、3位:米国となり、インドは米国を抜いて世界2位の経済大国となることが予測されている。経済力の向上に伴い、インドの国際社会における地位も上昇しよう。

(出所) インド準備銀行、インド統計・計画実施省、OECD、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。



(出所) インド統計・計画実施省、インド商工省・同経済諮問部・同通商情報統計局、インド自動車工業会、インド準備銀行、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。